

第629回番組審議会報告

2018年6月5日開催

■出席委員

佐藤卓己委員長 佐藤友美子副委員長 今井美樹委員 太平信恵委員
津村記久子委員 東野博昭委員 細見良行委員（書面） 丸山雅也委員

■毎日放送出席者

三村社長 梅本専務 木田常務 浜田取締役 宮田取締役
小林ラジオ局長 大沼ディレクター
大牟田コンプライアンス室長兼番組審議会事務局長

◆議題

ラジオ番組「アリスのMBSヤングタウン」

（2018年5月11日（金）22：20～23：20放送）

について意見交換した。

【各委員の主な意見は次の通り】

- * 谷村新司さん、堀内孝雄さん、矢沢透さんの会話のテンポがよく、しかも互いの声がかぶらない。3人の息ぴったりのトークが途切れず、1時間が短く感じるぐらい楽しめた。
- * 音楽愛にあふれる矢沢さんが音楽トピックスについて語るコーナー「キンチャンのOnly Music」は、専門的な話もわかりやすく、矢沢さんの声が心地よかった。
- * アリス世代だがファンではなかった。初めてじっくり谷村さんのトークを聞いたが、いかにも、ディスクジョッキーという語り口に、あらためてすごいと実感した。
- * 谷村さんが中心にいて、堀内さんのツッコミがあって、時々、矢沢さんが入ってくるという、役割分担が実によくできていてトリオ漫才のようだ。映像がなくても、誰が話しているかがはっきりわかる。
- * 3人の声が聞き分けられなかった。女性アナウンサーが入ってくれたら、少しは聴きやすくなるのでは。

- * 下ネタをいきなり平気で乱発していたが、やっぱりそこも魅力。今はいろいろ厳しい時代だが、「こんなん言うてええやろか」という迷いが一切ないのがカッコいい。
- * かつての人気コーナー「聞きこんだら」がそのままあったのも、ファンにはたまらないと思う。
- * 過去のある一年（今回は1976年）をトークのテーマとして取り上げる、堀内さんのコーナー「あの時君は若かった」にはちょっと違和感を覚えた。「アントニオ猪木対モハメド・アリ」の異種格闘技戦など、懐かしい出来事を紹介するのはいいのだが、手元の資料を読んでいる感じが見えて残念。改良の余地があるのでは。
- * 3人とも心地よい声で面白いことを言う。いわゆるバラエティ的ににぎやかな感じがなく、喫茶店で隣のおっちゃん達がしゃべっていて、それがものすごく面白いみたいな感じ。だから貴重だと思う。
- * アーティストの才能として、ラジオがうまいというのはすごく意味のあることだと思う。これまで何人ものアーティストのラジオ番組を聴いてきたが、アリスは話が詰まっていて面白い。
- * 五十代以上の世代には懐かしくも新しい番組だが、若い人たちにはどう聴こえるのか？40歳未満限定の公開放送等で反応を見てみたい。できるだけ多くの人に知って欲しい番組だ。
- * 若い人はあんまりねらわなくてもいいのでは。逆に、もっと「ヤンタン世代」が確実に聴くようなプロモーションをしていくべきだ。そうすればきっと大事にされる番組になると思う。
- * 番組でかかる音楽の選曲がいい。アリスの曲ひとつとってもライブバージョンのものをあえて選んだり、聴いていて嬉しいと思える曲ばかりだった。
- * 「今だから言える暗い過去」のコーナーの良し悪しは、リスナーさんのネタの出来次第だ。そして、一連の下ネタの後にかかる音楽が珠玉の名曲であることに驚く。

【番組制作者側の説明、質問への回答】

- * 去年12月にヤンタン50周年の記念特別番組をやった際、谷村新司さんらと話をする機会があり、ラジオをまたやってみたいというアリスの方々と「ヤングタウン」という看板にまたトライしてみたいMBSラジオ側の思いが一致。今年4月から毎週金曜日の夜に番組を始めることになった。実は3人揃ってラジオ番組をするのはこれが初めてで、「昔ながら」だけではなく、新しい試みでもある。
- * 3人でのラジオは初めてということもあり、谷村さんの気の入れようは相当なもので、番組収録の直前までたばこを吸い、メッセージを読みながら構想を練っている。収録が始まるまでは、あとの2人とは会わず、堀内さん、矢沢さんとは本番でドンで始まって、あの息の合い方というところに、さすがだなと思っている。
- * 谷村さんのコーナー「今だから言える暗い過去」は毎回下ネタが多いが「これだけの下ネタをしゃべった後にこの名曲を入れたんねん」という意地みたいなもので毎回世紀の名曲をかけ、そのギャップを谷村さんは楽しんでいる。今回たまたまベット・ミドラーだったが、ネタとの関連性は全くない。

以上